

平成28年度厚生労働省委託 がん医療に携わる看護師に対する地域緩和ケア等研修事業

【事業目的】

病院や訪問看護ステーション等に所属する看護職を対象として、地域緩和ケアや看護相談に関する研修を行うこと。

事業内容①

地域緩和ケアや看護相談に関する研修プログラムのインターネット配信

1. 180分の研修プログラム配信
(平成28年9月12日～平成29年2月13日)
2. 受講申込者数: 3,429名

事業内容②

地域における緩和ケア提供体制のネットワーク構築を促進するための、交流集会の開催

1. 全国6地区で開催
(平成28年10月～平成29年1月)
2. 参加者数: 総計425名

実施した結果

地域緩和ケアに関する知識や実践方法の均てん化の推進

- ①地域緩和ケアに関する基本的知識や実践方法の修得
- ②看護相談や地域連携や専門家への橋渡し・連携への理解促進

地域緩和ケアを担う看護職間・施設間のネットワーク形成の促進

- ①地域緩和ケアに関する情報交換
- ②他施設とのつながり方の共有
- ③地域の課題と解決策の共有



公益社団法人 日本看護協会

事業内容①インターネット配信研修[オンデマンド] 研修プログラムの概要

1. 研修名

地域緩和ケアに携わる看護師に必要な知識と実践
～基本的知識から看護相談、地域間・専門家との連携まで～

2. 研修目的

- (1) 地域緩和ケアに関する基本的知識や看護ケアの実践方法を習得することができる
- (2) 地域緩和ケアで必要となる看護相談について学び、地域連携や専門家への橋渡し・連携について理解することができる

3. 研修プログラム(180分)

単元名	講師
地域緩和ケアとは	安藤詳子
地域緩和ケアに必要な基本的緩和ケアの知識と実践①	梅田恵
地域緩和ケアに必要な基本的緩和ケアの知識と実践②	宇野さつき
地域緩和ケアの実践に求められる「看護相談」の知識と実践 ～地域に根差した相談支援とは～	尾方欣也 柏田孝美
地域連携の実際 ～東北大学病院におけるモデル事例の紹介～	浦山美輪
地域緩和ケアから専門的緩和ケアへの橋渡し・連携	渡邊眞理



公益社団法人 日本看護協会

事業内容①インターネット配信研修[オンデマンド] 研修プログラムの配信結果

1. 配信期間

平成28年9月12日～平成29年2月13日(約5ヶ月間)

2. 受講申込者数

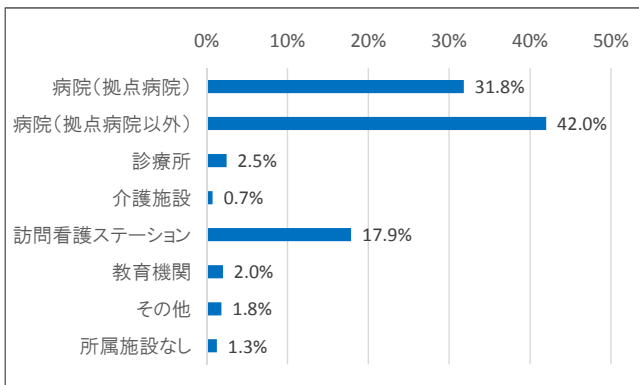
3,429名

3. 受講者背景

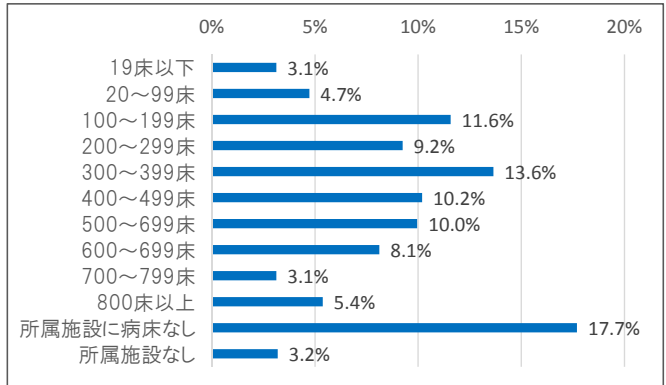
(1) 職種: 看護師が93.1%(その他、保健師・助産師・准看護師等)

(2) 職位: スタッフが68.9%、管理職が31.1%

(3) 所属施設



(4) 所属施設の病床規模

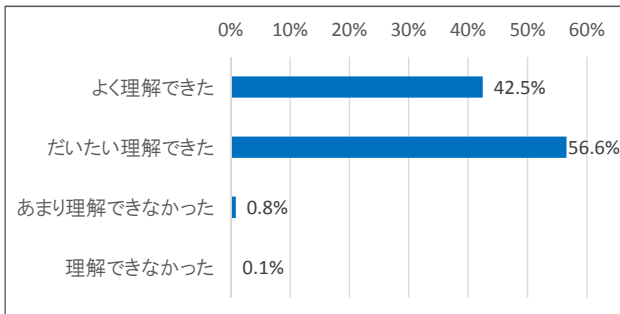


公益社団法人 日本看護協会

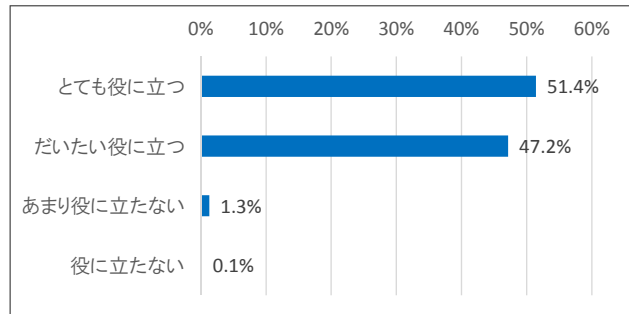
事業内容①インターネット配信研修[オンデマンド] 研修プログラムの配信結果

4. 受講者のアンケート結果

(1) 講義内容の理解



(2) 講義内容は実践に役立つか



(3) 研修に対する自由記述の内容

- ・今後の地域緩和ケアの展望が大まかに理解できて、とても有意義であった。
- ・今回のように、誰でも気負わずに関心のある分野での研修が行われると、実践に非常に役に立つ。
- ・いつでも空いた時間で聴講でき、聞き直したい箇所は再生可能であったため、学習効果が上がった。
- ・広大な地域差が、がん医療均てん化のバリアになっていると考えるため、オンデマンド形式の研修機会は有用性が高い。基礎知識として養うべき分野については、このような形式の研修が良い。
- ・訪問看護ステーションに所属していると研修受講の機会が限定されるため、このような研修開催を拡大してほしい。



公益社団法人 日本看護協会

事業内容②全国6地区での交流集会の開催 開催概要

1. 企画名

地域緩和ケアのネットワーク構築促進に向けた地区別交流集会
～いつでもどこでも切れ目のない緩和ケアの提供を～

2. 開催目的

地域で緩和ケアを担う看護職間・医療施設間でのネットワーク形成による連携強化

3. 交流集会の内容

- ・平成27年度までの日本看護協会におけるがん医療に関する厚生労働省委託事業の概要
- ・平成28年度「がん医療に携わる看護師に対する地域緩和ケア等研修事業」の概要
- ・地域緩和ケアに関するトピックス講義
- ・地域連携のために看護職にできるアクションに関する意見交流
- ・質疑応答

4. 開催日時・場所・参加者等

地区	日にち	会場	時間	参加者数
北海道・東北	12月3日(土)	TKPガーデンシティ仙台	13:00～16:00	54
関東・甲信越	10月21日(金)	横浜ベイホテル東急		54
東海・北陸	11月5日(土)	ミッドランドホール		91
近畿	1月14日(土)	ザ マーカススクエア神戸		121
中国・四国	1月28日(土)	ホテルグランヴィア岡山		49
九州・沖縄	11月26日(土)	TKPガーデンシティ博多		56
				合計 425名



公益社団法人 日本看護協会

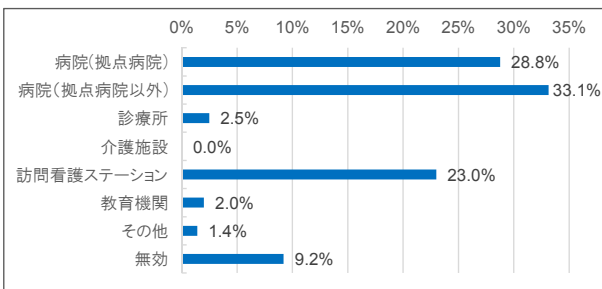
事業内容②全国6地区での交流集会の開催 アンケート結果

1. 参加者(回答者)背景

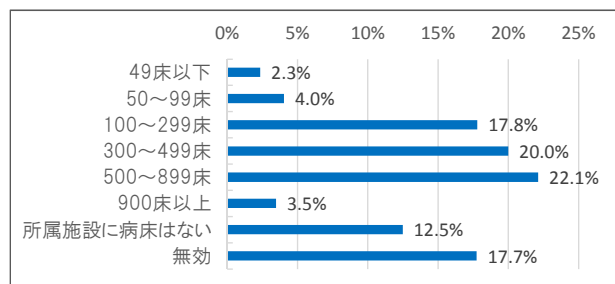
(1) 職種: 看護師が88.1%(その他、保健師・助産師・准看護師、作業療法士等)

(2) 職位: スタッフが53.4%、管理職が32.3%

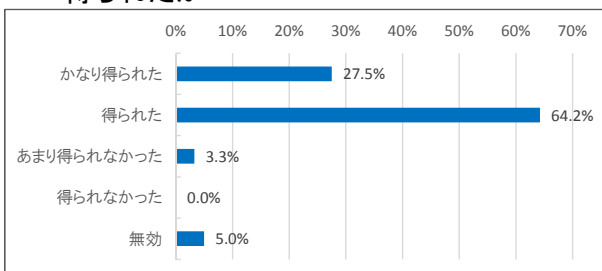
(3) 所属施設



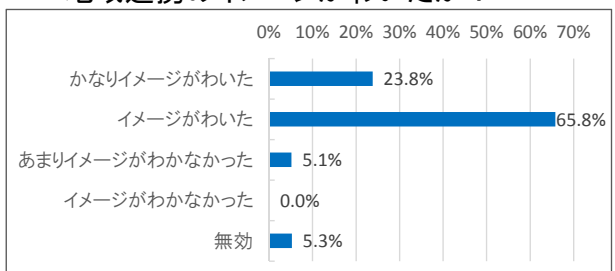
(4) 所属施設の病床規模



(5) 地域緩和ケアの実践に役立つ知識や技術は得られたか



(6) 切れ目のない緩和ケアを提供するための地域連携のイメージがわいたか?



公益社団法人 日本看護協会

事業内容②全国6地区での交流集会の開催 アンケート結果

(7) 自由記載の内容(代表的な意見を一部抜粋)

1. 他施設や普段意見交換する機会がもてない訪問看護ステーションのスタッフと現状を把握でき、意見や情報交換の中で自施設の課題が見えた
 - ・地域から病院への問題提起の場があまりないという問題点が見つかった
 - ・それぞれの施設が抱えている地域連携における課題や問題を話し合えた

2. 地域で緩和ケアをつなぐための自身の役割を理解、確認することができた
 - ・病院と地域との連携の重要性が感じることができた
 - ・訪問看護ステーションや地域の事情、地域の中でつながるための看護の役割を再確認できた
 - ・自分の現在行っていることの方向性や現状分析について確認、評価できた

3. 地域緩和ケアに関する課題を共有でき、解決策についてアイデアを交換できた
 - ・在宅の現場で抱えている問題をシェアし、病院側での改善すべき対応を考えることができた
 - ・他施設の取組み内容を知り、自身が実践すべき内容が見えてきた
 - ・訪問看護ステーションのスタッフから情報を得て、在宅緩和ケアにつなげる方法がわかった

